

先天性風しん症候群対策 抗体検査・予防接種の説明書

風しんは、免疫のない女性が妊娠中（特に 20 週頃まで）に感染すると、先天性風しん症候群と呼ばれる先天性の心臓病、白内障、聴力障害、発育発達遅延などの障害がある子どもが生まれる可能性が非常に高くなる注意すべき疾患です。

西東京市では、先天性風しん症候群の予防を目的として風しん抗体検査・予防接種事業を実施しております。助成対象となるワクチンは、原則、麻しん風しん混合（MR）ワクチンです。

★ 実施期間

令和4年6月1日～令和5年3月31日

★ 抗体検査

☆対象者

西東京市に住所を有する 19 歳以上の方で、以下の ① から ③ までのいずれかに該当する方

- ① 妊娠を予定又は希望する女性
- ② ①の同居者
- ③ 妊婦の同居者

ただし、原則として、次の方を除きます。

- ①風しんにこれまでにり患したことがある方
- ②風しんの予防接種を 2 回以上接種したことが明らかな方
- ③平成 26 年度以降、本事業による抗体検査を受けた方
（妊婦健診などで行う抗体検査は、当てはまりません。）

☆費用 無料

★ 予防接種

☆対象者

西東京市に住所を有する 19 歳以上の方で、以下の ① から ③ までのいずれかに該当し、風しんの抗体価が低い方（抗体検査の結果、低抗体価であった方）

- ① 妊娠を予定又は希望する女性
- ② ①の同居者
- ③ 妊婦の同居者

☆費用（医療機関で支払います。）

麻しん風しん混合ワクチン…………… 5,800 円

風しんワクチン …………… 4,000 円

※生活保護受給世帯及び中国残留邦人等支援給付世帯の方が、受給証明書等、受給世帯であることを証明するものを医療機関に持参して接種する場合は無料です。

☆接種方法

指定医療機関での個別接種

★ 持ち物

（共通）抗体検査の結果等、低抗体価であるとわかる書面の写し

	対象者	持ち物
①	妊娠を予定又は希望する女性	ご自身の保険証や免許証等現住所がわかるもの
②	同居の家族に妊娠を予定又は、希望の女性がいる方	(1)ご自身の保険証や免許証等現住所がわかるもの (2)妊娠を予定又は希望する同居女性の現住所がわかるものの写し（保険証や郵便物、公共料金の領収書等）
③	同居の家族に妊婦がいる方	(1)ご自身の保険証や免許証等現住所がわかるもの (2)同居している妊婦の母子手帳の居住地欄の写し （母子手帳がない場合は妊婦の保険証等の写しや郵便物、公共料金の領収書で可）

～先天性風しん症候群対策予防接種を受けるにあたって～

1 風しんについて

風しんウイルスの飛沫感染によって起こります。潜伏期間は2～3週間で、軽いかぜ症状で始まり、発疹、発熱、後頸部リンパ節腫脹などが主な症状です。そのほか、眼球結末の充血もみられます。成人では関節炎の頻度が高く、予後は一般的には良好ですが、血小板減少性紫斑病や脳炎の合併を認めることがあり、まれに溶血性貧血もみられます。

大人になってからかかると重症化しやすく、特に妊娠 20 週頃までの妊婦が感染すると、先天性風しん症候群と呼ばれる先天性の心臓病、白内障、聴力障害、発育発達遅延などの障害がある赤ちゃんが生まれる可能性が非常に高くなります。

2 予防接種の効果と副反応について

予防接種を受けた方のうち、95%以上が免疫を獲得することができます。

予防接種により、軽い副反応がみられることがあります。また、極めてまれですが、重い副反応がおこることがあります。予防接種後にみられる反応としては、以下のとおりです。

① 麻しん風しん混合ワクチン（MR）の主な副反応

主な副反応は、発熱や、発疹です。これらの症状は、接種後 13 日以内（特に7～10 日）に多くみられます。接種直後から数日中に過敏症状と考えられる発熱、発疹、そう痒（かゆみ）などがみられることがありますが、これらの症状は通常 1～3 日でおさまります。

まれに生じる重い副反応としては、アナフィラキシー、急性血小板減少性紫斑病、脳炎及びけいれん等が報告されています。

② 風しんワクチンの主な副反応

（風しんの予防接種のみを実施するときを使用）

重大な副反応として、ショック、アナフィラキシー（0.1%未満）や血小板減少性紫斑病（100 万人当たり 1 人程度）が報告されています。

その他の副反応としては、まれに発疹、じんましん、紅斑、そう痒、発熱、リンパ節の腫れ、関節痛などが認められています。成人女性の場合、小児に接種した場合に比べて関節痛を訴える頻度が高いといわれています。

3 接種に当たっての注意事項

予防接種の実施においては、体調の良い日に行うことが原則です。健康状態が良好でない場合には、かかりつけ医等に相談の上、接種するか否かを決めてください。

また、以下の状態の場合には予防接種を受けることができません。

- ①明らかに発熱（通常 37.5℃以上をいいます）がある場合
- ②重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな場合
- ③受けるべき予防接種の接種液の成分によってアナフィラキシーを起こしたことがある場合
- ④現在、妊娠している場合※
- ⑤その他、医師が不適切な状態と判断した場合

※妊娠している方又はその可能性がある方は、予防接種不適合者として接種することができませんが、出産後又は妊娠していないことが確認された後、接種を受けてください。

接種に当たっては、接種を受ける医師にご相談ください。なお、接種後2か月間は、妊娠を避けることが必要です。